



「第20期 空間線量率マップ」が完成しました！ (池田 光司)



7月末に第20期空間線量率マップが刷り上がり、8月に配布が始まりました。今回の空間線量率の測定は、昨年に引き続きコロナ禍の中、地元の方々を中心に限られた人数で、約3か月をかけて行われました。

福島第一原発事故から10年(20回)にわたって「空間線量率マップ(実際のマップには分かりやすく放射線量率マップと表記)」を作製し配布できたことは、とても意義深いことだと思います。その意義を感じ、コロナ禍にもかかわらず粘り強く測定を行っていただいたみなさんに、あらためて感謝申し上げます。先号(184号)のポレーシ

ェに、今回の測定を中心になって進めていただいた「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」の小林岳紀さんと、今回の測定に参加された山岸秀樹さんの測定完了報告の記事が載っていますので、あらためてご覧いただければと思います。

今回のマップの特徴の一つは、それぞれの地域を初めて測定した時のマップと、今回測定したマップを横に並べた「比較マップ」を作製したことです。避難指示により立入りが制限された関係で、それぞれの地域で測定を開始した時期は異なりますが、原発事故から10年が経って、それぞれの地域の空間線量率が下がったことが実感できると思います。マップは、チェル救のホームページにも載せていきますので、ぜひご覧ください。

今回のマップの特徴の一つは、それぞれの地域を初めて測定した時のマップと、今回測定したマップを横に並べた「比較マップ」を作製したことです。避難指示により立入りが制限された関係で、それぞれの地域で測定を開始した時期は異なりますが、原発事故から10年が経って、それぞれの地域の空間線量率が下がったことが実感できると思います。マップは、チェル救のホームページにも載せていきますので、ぜひご覧ください。

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞 本館5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号 297)

口座 番号：普通 1682863

口座 名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便 振替：00880-7-108610

TEL / Fax: **052-228-6813** (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

* 6年前に電話番号が変わっています。お間違いがないよう もう一度ご確認ください。

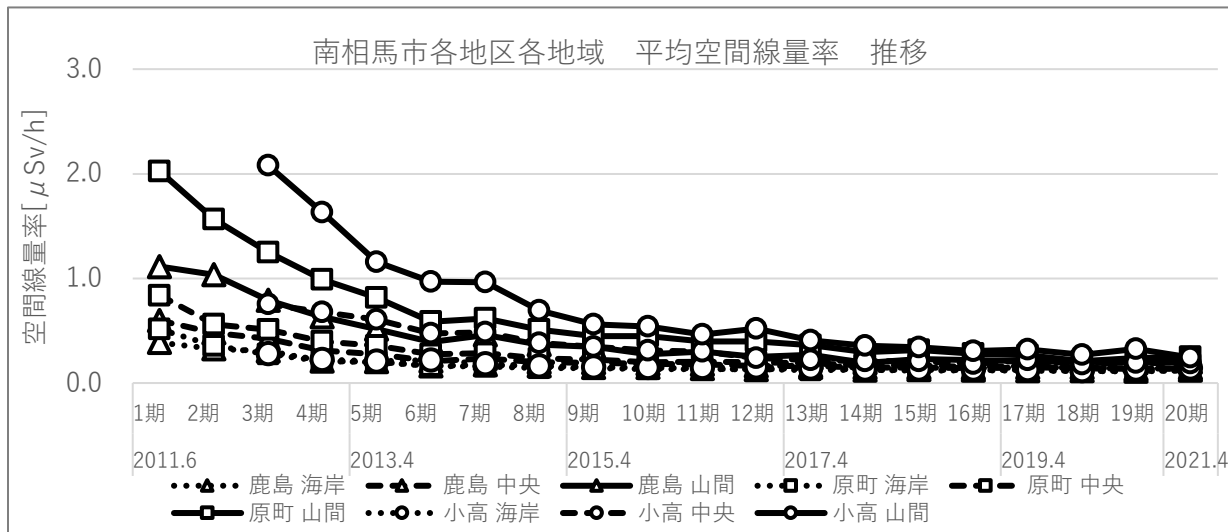
ホームページ: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

さて、今回測定したデータの分析結果のポイントは、地域によって差があるものの、全体的には放射性セシウムの物理的半減期に従って空間線量率が下がってきていると言えることです。今後の空間線量率の変化を考えていく場合に、放射性セシウムの物理的半減期が目安になると思います。そこで、放射性セシウムの物理的半減期についてあらためてまとめてみます。

私たちが測定している空間線量率は、福島第一原発事故の際に地表に降り注いで、その後土壤中に沈着した放射性セシウムが空気中に向かって発する放射線の量によって決まります。沈着した放射性セシウムが多い所ほど、空間線量率が高くなります。放射性セシウムは、放射線を出しながら放射線を出さない物質に変わっていくため、放射性セシウムが出す放射線の量は年々減っていきます。放射性セシウムには、物理的半減期（放射線の量が半分になるのに要する期間）が2年のセシウム¹³⁴と、30年のセシウム¹³⁷があります。事故当初は、全体の放射線量の70%をセシウム¹³⁴の出す放射線が占めていましたが、半減期の短いセシウム¹³⁴の出す放射線は年々減っていき、逆に半減期の長いセシウム¹³⁷の出す放射線の割合が増えて、10年後の現在は、セシウム¹³⁷の出す放射線が全体の放射線量の90%近くを占めるようになっていました。半減期の長いセシウム¹³⁷の割合が増えるに従って、空間線量率が下がる割合も減っていきます。計算上では、事故当初は空間線量率が1年で20%下がりますが、10年後では1

年に5%しか下がりません。例えば、放射性セシウムによる空間線量率が $1\mu\text{Sv/h}$ だとすると、事故当初は1年後に $0.8\mu\text{Sv/h}$ になりますが、10年後の現在ですと1年後に $0.95\mu\text{Sv/h}$ にしかならないということです。 $0.1\mu\text{Sv/h}$ ですと10年後の現在は1年で $0.095\mu\text{Sv/h}$ にしかありませんので、私たちの使っている測定器の精度や放射線量の変動などを考えると、下がったことを検出することが困難です。下の図に、事故当初から測定を始めた南相馬市の空間線量率の変化を示しましたが、ここ数年はあまり変化していないように見えるのは、空間線量率が下がってきたことと、物理的半減期による低下の割合が減ってきたことが重なったためと言えます。今回の詳細な分析結果は、チェルノブイリのホームページに載せる予定ですので、ぜひご覧ください。

現在、10年間の測定の結果をまとめていますが、あらためて感じるのは、① 放射能汚染は原発から同心円状に広がらないこと、② 放射能汚染のレベルは下がっていきませんが、分布は事故当初のまま残っていくこと、③ 事故後の放射能汚染の減り方は、放出された放射性物質で決まること、④ 事故から数年経つと、空間線量率はほぼ放出された放射性物質の物理的半減期に従って低下していく…ということです。福島第一原発事故により放射能に汚染された地域では、今後、土壤中に残っている物理的半減期30年のセシウム¹³⁷と向き合っていく必要があります。



「南相馬便り」 コロナにより、「秋の種まき会」は中止となりました！

農地再生協議会の抱える問題

(原 富男)

皆さんに使っていただいている「油菜ちゃん」の販売元である「南相馬農地再生協議会」は今、試練の時を迎えています。大口購入者が購入を控え、イベント中心に対面で販売してきた「油菜ちゃん」の売れ行きが伸びない事情があります。そこそこ頑張っているけれど、まだ安心できる状況にはないという段階でしょうか。そんな「再生協」の現状を紹介します。

① 信田沢搾油所の用地・建物を購入できるか

信田沢搾油所は現在、南相馬市から土地建物を借りて運営していますが、賃貸契約は来年 3 月までとなっています（若干伸ばせるかもしれませんが…）。南相馬市は、できることなら土地建物を 1,800 万円で買って欲しいということですが、この状況下では「う～ん」と考え込んでしまう状況にあります。時期とすれば、そろそろ結論を出さなければなりません。



またこの夏に、搾油を担当してこられた職員が退職し、菜種栽培を担っている「アグリあぶくま」に勤めることになったことです。搾油は、出向してもらい対応できているのですが、搾油量・スピード・品質の維持など、今後課題もあります。

② 種の品質と在庫

在庫の菜種を、全ては油として販売できず、新しく採れた種を優先して搾油してきた結果、搾油できなかった種が残り、種として食油会社に購入を打診してきました。しかし、クーラーなどで冷やして保管してこなかったことや、播種する種を自家採種としてきたこと、他の種との交雑などから品質が落ちて酸化している物もあり、2019 年度と 2020 年度産の合計 32 トンは、食用でなく、工業用（切削油用など）として販売することになりました。

品質の保持は、長年油を作り販売している会社ならば、当然行われていることですが、はじめて日の浅い「再生協」では人手も足りず、一人何役も担わなければならない状況で、品質保持がおろそかになってしまったのが実情です。これを反省し早速、この秋播く種は原種に切り替えました。まだ保管場所のクーラーは設置できていませんが、喫緊の課題です。

③ 「再生協」と「アグリあぶくま」の関係

これまで「油菜ちゃん」は、菜種の栽培を「アグリあぶくま」が担い、搾油を「再生協」が行うということで成り立ってきました。ところが、菜種栽培も 10 年近くなり、当初の一体感だけではやっていけない時期に入ったと思われます。

「再生協」も「アグリあぶくま」も代表者が同じという状態は、設立当初は問題がなかったのですが、そろそろ改善されなければなりません。「アグリあぶくま」が栽培した種を、「再生協」が購入する関係のなかで、人事もこれまで通りではやっていけない時期に入ったのです。

④ 意思決定の仕方

新型コロナが猛威を振るう中、それでも会議を開き話し合いを重ね、取り組みを進めなければなりません。「再生協」では、コロナ対策として一時的に、対面会議に変えてメールによる議論を行ったことがあります。結果は良くなかったように思われます。メールの場合、意思を文字で表すことの上手な人と、そうではない人の差ができ、議論にならないのです。またメールでは、相手の顔色をみて「これは言うてはいけない」という控える判断ができず、極論になってしまうことがあります。「再生協」でも、これに似た状態がありました。

これまでのメール会議から脱し、先日 ZOOM 会議に変更したところ、相手の気持ちを察しながら話ができて、対面に近い効果が現れたように感じました。売り上げの減少、コロナ禍、原発事故から 10 年を越えた現在、いろいろな意味で節目だと思われます。

<ウクライナ情報>

★ ホステージ基金・事故処理作業者団体からの「広島・長崎 原爆の日へのメッセージ」

チェルノブイリ救援・中部 御中 私たちの日本の友人の皆さんへ

1945年8月6日・9日の原爆投下を、人類は毎年思い起こします。2度の爆撃によって、非武装の市民約25万人が亡くなり、その後何日も、何か月も、何年もの間に、放射線障害によって多くの人が亡くなりました。

すでに長年皆さんの団体と協力し、日本に多くの友人がいる慈善基金「チェルノブイリ人質たち」は、日本国民の皆さんとともに追悼の意を表します。

皆さんは、チェルノブイリ原発事故後の早い時期から、私たちとともにいてくださいました。私たちは、福島第1原発事故の起こった時、皆さんをサポートし、自分たちの経験をお伝えしようと努力しました。

私たち（皆さんのウクライナの友人たち）に、この悲しい日々、皆さんとともにいさせてください。そして、日本国民の皆さん、これらの悲劇の日付にあたって、支えさせてください。

1945年の原爆投下で亡くなられたすべての方々のご冥福を祈って、私たちは深く頭を垂れます。

敬意を込めて 2021年8月6日

「チェルノブイリの人質たち」運営委員会

「チェルノブイリの消防士たち」

「リクヴィダートル」「プリピャチ・センター」「チェルノブイリ障害者基金」のメンバーである
事故処理作業者一同

★ 国際送金

「ミルク代50万円」と「ナロジチ地区病院の医療支援60万円」を送金。

★ コロナ情報

- こちらでは、COVIDに関しては今のところ静か。希望者全員に、ワクチン接種が行われている。私（ドンチェヴァさん）もモデルナ社のワクチン接種を受けたが、2日後には寝たきり状態になってしまった。すべての関節と頭が痛み、37.4℃の熱が出て、眠くて仕方がなかった。日曜日でよかった。月曜にはもうよくなり、普段通り元気に過ごせた。9月4日に2回目の接種です。
- ジトーミル州では、1日あたり40人程度の新規感染者が出ている。今の時点では、病院はなんとかやれている。主な争点は、ワクチン接種を受けるか受けないか、ということ…。こちらでは受けないという人がたくさんいる。時には、時代が中世に戻ったのではと思えるほど。オリンピック後の日本の状況については聞いている。そうなることは前からわかっていた。どう頑張っても、結局感染者は増加するに決まっている。でも、日本はこの状態を克服できるだろう。日本人は、世界で一番法律を守る国民だから。

★ 非常事態局医療センター（チェル救支援先）

すでに、公式に第2のスペースが開設された。センターに設置された、2020年と2021年に購入（支援）した機器の稼働状況を調べに訪問した。その機器は…

1. ドラフトチャンバー [局所排気装置] (写真右)
2. 乾燥滅菌機
3. 保温バッグ (写真左) です。

ハルィナ先生とスタッフ一同から、「皆さんに心からのお礼をお伝えしてもらいたい、皆さんのご支援のおかげで、彼らの仕事がどんなに安全になり、利便がよくなったかを見においでいただきたい」とのこと。



★ クリスマスカードキャンペーン

私たちは、今年も必ずキャンペーンを行う。子ども達は、もうこのキャンペーンなしではすまされない。また厳しい防疫措置が採られるかもしれないことは理解しているが、昨年同様、私たちはもう長年協力してくれている学校・幼稚園・病院に頼ることができる。日本のカードや、折り紙その他の興味深い手芸品を送っていただければありがたい。12月10日～15日にウクライナへカードが届けば、ちょうどよいです。

(山盛)

ドンチェヴァさんからの情報

今回は、「ポレーシェ」の読者が興味を持つかも知れない「新聞記事」の抜粋をお届けします。チェルノブイリ原発事故 35 周年以降、ウクライナのメディアで多くの興味深い事実が報道されるようになり、私はそれらを合わせて一つにまとめることにしました。(ドンチェヴァ)

★ ジトミル州には、放射性物質による汚染地域に分類されている市町村が、あわせて 734 ある。うち 7 つは第 1 ゾーン(立入制限区域)、63 が第 2 ゾーン(無条件(義務付)移住区域)、301 が第 3 ゾーン(保障付任意移住区域)、363 が放射線管理強化区域(第 4 ゾーン)である。2014 年 12 月 28 日付の法律の第 2 条により、「放射線管理強化区域」の定義は廃止された。つまり、第 4 ゾーンは存在しなくなったのである。

★ 土壌の深さ方向に対する放射性物質の自然移動という概念がある。この移動は 1 年あたり 1.5~2 cm の速度で起こる。したがって、チェルノブイリ原発事故後 35 年の現在、セシウム 137 とストロンチウム 90 は平均して土壌の深さ方向に 50~60 cm 移動しており、これは農地の耕作される層よりも深いところである。現在このような農地で栽培される農作物は、汚染を受けていない。つまり、この地域の牛乳や肉は、現在摂取することが可能である。牛乳の放射能許容値は 100 ベクレル/l であるが、採取されるサンプルの放射能はその 3 分の 1 ないし 4 分の 1 であり、国際的基準値(37 ベクレル/l)の範囲内でさえある。調査が行われたのはナロジチ地区フルィストゥイニウカ村(無条件(義務付)移住区域、1991 年に住民はラドムィシリ地区ボティエウカ村に移住したが、半年で 37 世帯が帰還した)。

★ 人体に吸収される放射性物質の 95% は森で採取される食品、特にキノコ由来のものである。キノコはこれだけ年月が経っても汚染され続けている。農地では放射性物質が自然に沈下していくのに対し、森林で積もった落葉は放射性物質の移動を妨げ、現在放射性物質は未だにキノコが生える土壌の表層に留まっている。

★ 放射性物質の移動は湿度の高い土壌ではす

っと活発に起こる。乾燥した気候条件下では、移動が最小限に抑えられる。さらに、昨年の森林火災は、主に森の下草が燃えたものである。落葉の層が燃え、それに伴ってそこに蓄積された放射性物質が舞い上がることによって、二次的な土地の汚染が起こったのである。

★ 汚染地域のゾーン解除(ゾーン変更)は非常に困難である。重要な役割を果たすのは社会的要因である。現在の、第 1・第 2 カテゴリーのチェルノブイリ被災者証明を、誰も取り上げるわけではないということを説明しなければならない。一方、いかなる種類の農業も行うことが禁じられている第 2 ゾーンから土地が外されれば、そこに投資を誘致することが可能となり、したがって社会的・経済的状态を改善することができる。

★ 放射性物質によって汚染された領域の復興は焦眉の問題である。一つの方法は、エネルギー作物の栽培である。フルィストゥイニウカ村では、かなり多くのこの種の作物の栽培が試みられてきた。最も効率がよいのは、**Miscanthus x giganteus*** であることがわかった。放射性物質の蓄積が最も少なく、ペレットやバイオ燃料などの製造に用いることが可能である。多額の経費も必要なく、ほとんど手もかからない。初年度と次年度に除草剤を散布するだけである。一方、収穫は 25~30 年にわたって続けられる。

【Miscanthus x giganteus*】

ミスカンサスは、アジア・アフリカ・オーストラリアではよく知られた作物である。ヨーロッパには 20 世紀初頭に伝播し、オルタナティブ燃料について活発な議論が始まった頃、広く知られるようになった。ウクライナバイオエネルギー連盟の専門家たちは、ヨーロッパの農地の 10% にミスカンサスを植えた場合、それを燃やすことによって、電力の 9% までを得ることができるという。

＝☆☆★ **2021 年度 クリスマスカードキャンペーン・始まります！** ★☆☆＝



今年もこの時期がやってきました。ウクライナと福島の子ども達にクリスマスカードを贈る、クリスマスカードキャンペーンが始まります。昨年に引き続き、コロナ禍でのキャンペーンとなりますが、この交流を絶やさず続けたいと思います。ホステージ基金のドンチェヴァさんも、このようにメールをくださいました。

「私たちは、今年も必ずキャンペーンを行います。子ども達はもうこのキャンペーンなしではすまされません。また厳

しい防疫措置が採られるかもしれないことは理解していますが、昨年同様、私たちはもう長年協力してくれている学校・幼稚園・病院に頼ることができます。ですから、また日本のカードや、折り紙その他の興味深い手芸品を送っていただければありがたいです。」

南相馬の幼稚園・保育園にも連絡を取り始めています。

昨年は、約 2,500 枚のカードが集まりました。ウクライナへは船便で送り、届いたのは 2 月でしたが…今年は郵便事情も戻っていますから、航空便で送ります！

折り紙作品も送っていただけると助かります。立体折り紙は送れませんので、平面の折り紙作品を送ってください。カードと一緒に添えて子ども達のちょっとしたプレゼントにさせていただきます。同封のチラシもご覧ください。お友達に配ってくださる方は、必要枚数をお知らせくだされば郵送いたします。事務局までお問合せください。皆様からの素敵なカードをお待ちしています！

＝◇◆◇ **2021 年度ミルクキャンペーン・今年も宜しくお願いします** ◇◆◇＝

昨年度は、503,000 円のご寄付が集まり、8 月に支援金を送金することができました。

今年度は、すでに 103,000 円のご寄付が寄せられています。皆様からいただいた寄付金は、来年度に送金し、現地で必要な子ども達のために粉ミルクを購入します。非常に深刻な病気の子どものための治療を行っている、ジトーミル州立小児病院では、昨年、治療目的の特殊な粉ミルクを購入しました。

支援を受ける子ども達は、親権を放棄され、どの子どもも深刻な疾患を抱えており、特別な栄養とケアを必要としています。未熟児セクションの医師は、「この子たちは、基本的にあなた方のミルクのおかげで助かっているのです」と、語っています。

その他にも、貧困家庭や子どくさんの家庭、孤児院などで、日本からの粉ミルク支援を必要としています。今年も、どうか皆様からのご支援を、よろしくお願いいたします。



「おうち時間」を利用して、折り紙を折ってみませんか？

You Tube で【折り紙 ハート猫】・・・と検索！

クリスマスカードに同封できる、かわいい作品（右）です！

折り紙 1 枚で作ることができる「ハート猫」。

そのまま飾れるし、ハート面にメッセージを書くこともできます

（犬やパンダもあります）。



ぜひ ウクライナ語 で！	日本語	(英語)
Дружба	友情	friendship
Дякую	感謝	thanks
надія	希望	hope
мріяти	夢	dream
радість	喜び	joy
Кохання	愛	love
щастя	幸せ	happiness
молитва	祈り	prayer

※ メッセージの参考にしてください。



チェル救の「リモート運営委員会」に参加して

チェルノブイリ救援・中部の運営委員会は、毎月第 1 土曜日の午後 1 時から、鶴舞にある事務所で
行われる。昨年はコロナの為、5、6 月は中止（メールで意見交換）。6 月の総会・チェル救デーも中
止。今年に入って未だコロナの終息が見込めない中、「リモート運営委員会をしてみたら？」との提案
があった。始めはあまり関心を持たれなかったが、メンバー（私以外）はそこそこの経験を積んでいた。
そして、ついに 9 月 4 日、リモート会議。パソコン画面に 12 人の顔が並ぶ。神野さんの司会で会議
が始まる。皆がそれぞれ意見を述べる。なんの違和感もなかった。生身の人間と会って話をする方が
いいに決まっているけど、リモートで十分会議は成り立つのだと実感した。15 分の休憩をはさんで、
午後 5 時に終了。ところで、私がリモート会議に参加できたのは奇跡だ。20 数年前チェル救の情報交
換は FAX だった。私のパソコンは、チェル救との情報伝達の為にのみ使われた（今ではアマゾンで買
い物ができるようになったが・・・）。でも、リモート会議は恐怖だった。それを、可能にしてくれたの
が、事務局の兼松さん、名古屋 NGO センターの村山さん。



会議までの、2 回のサポートのおかげだ。パソコン用語な
どチンプンカンプン。それを、じっくりと説明し、できるま
で対応してくださった。感謝しかない。

最後に、とんだハプニング！ 飼猫は、パソコンを開けると
必ずキーボードに乗りたがる。引き戸を閉めて追い出したの
だが、引き戸は簡単に開ける。4 回の攻防をなんとか凌いだ。
休憩中、見に行ったらソファでふて寝していた。（橋本）

ますます広がる世界中の大規模な森林火災や洪水は、これまでの経済優先社会がもたらした地球環境破壊が原因である。コロナ・パンデミックもその一つに過ぎない。こうした現実が世界の経済界にも影響をもたらし、再生可能エネルギーへの投資や脱炭素が世界の流れになっている。遅まきながら、この日本も「脱炭素」を政治目標に掲げざるを得なくなった。しかし、その政策内容はと言えば、時代遅れも甚だしい。

政府の脱炭素政策

菅政権は2020年12月25日、2050年までに温室効果ガス排出ゼロを目指すとして、「グリーン成長戦略」を発表した。脱炭素化推進と同時に、経済活性化を進める長期戦略という。2030年半ば迄に電気自動車100%、35年以降は水素で飛ぶ飛行機を導入、50年までに農林水産業における炭酸ガス排出ゼロ、火力発電における炭酸ガス排出の大幅削減などの目標を掲げる。その為には膨大なエネルギーが必要だが、再生可能エネルギーで全てを賄う事は不可能という。ではどうするか。洋上風力発電を4,500万Kw（原発45基分）、水素ガス導入で、船舶や自動車などの炭酸ガス排出を減らす。火力発電は、石炭や石油にアンモニアを混ぜて炭酸ガス排出を減らす。原発は30基相当の再稼働と同時に、事故が起こっても影響の少ない小型原発を作り、全国の都市部の地下に設置する…という。全体的には大幅な電化推進のため、産業・運輸・家庭部門の電気は、現状よりも30～50%増加する。

以上が、政府のグリーン成長戦略の大筋である。ではこの戦略の何が問題か。

水素は輸入する

水素を燃やせば、廃棄物は水であり炭酸ガスは出ない。だが、水素をどうやって調達するかが問題である。基本的には輸入である。オーストラリアやインドネシアには、石炭になる前の泥炭が地下資源として大量にあり、それを蒸し焼きにすれば水素と炭酸ガスになる。水素と炭酸ガスを分離し、炭酸ガスは海の地下深くに注入し、大気中に出さないという。蒸し焼きには当面石炭火力を使う。

水素運搬用の大型船は既に完成した。だが泥炭地開発は、更なる森林破壊をもたらす温暖化を進める。国内では、水を電気分解して水素を作る計画もある。それに使う電力は、原発や化石燃料で作る。原発事故被災地の福島県浪江町の立ち入り禁止区域では、東芝が国内最大規模のメガソーラーで水を電気分解し水素を作っている。だが、電気は電気として使った方がエネルギー効率は高い。水素の為の電気は無駄使いである。原発は、発電時には炭酸ガスを出さないが、事故の危険性や廃棄物問題は解決しない。洋上風力発電は現在、各地で建設が進んでいるが、電磁波問題や環境破壊など課題は未解決であり、台風王国の日本で安全性を確保できるのかも問題である。こうした政策の中身を見れば分かるように、日本の脱炭素戦略は目先のイメージ作りに過ぎず、根本的な問題解決には目をつぶっている。これまでは、車や電化製品を売った金で石油石炭を買ったが、今後は水素を買えば良いという、従来と同じ政策である。これでは世界の流れに沿えない。

自然エネルギーの合理性

自然の生物界におけるエネルギー生産は、全て植物が担っている。植物は、地下から吸い上げた水を太陽光エネルギーで水素と酸素に分解し、大気から吸収した炭酸ガスと水素を結合して、様々な有機物を作り成長する。所謂、光合成である。廃棄物の酸素は動物の呼吸を助ける。全ては無駄がなく、自然の循環が成り立っている。今こそ自然に学び、人間もまた自然の一員であることを自覚すべきではないか。（2021年9月20日 河田）

Q 再生協での仕事で、楽しいことと困っていることを教えてください。

やりがいもあって毎日が楽しいです。

「油菜ちゃんをご支援・ご愛用いただいている皆様とお話しできた時・お会いできた時」がとくに楽しいですね♪ お客様からメールを頂戴すると、嬉しくてつい返信しちゃうんですけど、その返信に対してお相手がまた返信してくださると、もっと嬉しくなってまた返信してしまうという...本当に単純な私です。(笑)

春の花見会や秋の種まき会でも、今までメールでしかお話しできなかったお客様や、関係者・支援者の方が参加してくださって、受付で「初めまして～☆やっとお会いできましたね～♪」なんて会話をした方が何人かいらっしゃいました。

まだまだ勉強不足の私ですので、いろいろな方とお話をすることでたくさんのことを吸収し、自身のモチベーションアップに繋がっています。

困っていることは、「再生協が抱える様々な課題」ですね。ひとつの課題が解決できたと思ったら、また次の課題が浮き彫りになる...。最近はこの繰り返しなんです

...。でも、すべての課題を乗り越えた先には必ず明るい未来があると信じて、私自身は目の前のやるべきことをしっかりとやるだけ！と思って頑張っています。

Q これまでで一番大変だった仕事は何ですか？

ご注文の駆け込みですね。例年、7月中旬～8月のお中元、11月下旬～12月のお歳暮の時期、特にお歳暮は、毎年“良い意味で”大変な思いをさせていただいています。

お歳暮のご注文は、ギリギリで駆け込みが多い印象...。年末年始の休業前わずか2週間ほどの間に、100を超えるセット数を受注し、私ひとりでご納した年もありました。正直、かなりきつかったです。

大変なのはご注文の対応だけでなく、私自身の手指もです。ギフト箱の作成、内容物のセット、包装も私が担当していますが、乾燥する冬の季節は、ただでさえ手が荒れやすくなっているのに、加えて紙類を扱うことで手指の油分が奪われ、ますます手荒れが進む原因に...。追い打ちをかけるように、家庭での水仕事。もう～、痛くて泣きます。

ご注文を受注後は、可能な限りお待たせせずにお届けすることをモットーにしていますが、なかなか届かないなあ...という時は、ご注文が混みあって対応が遅れているということでご理解をいただければ幸いです。“受注されたのかな？”“いつ頃届くのだろう？”といった不安を払拭するためにも、メールでのご注文をおすすめします。必ず返信しますよ！ (次号に続く)



油菜ちゃんと「夢茶や」が会って2年がたちました

(夢茶や 小久保&半田)



＜半田さん(左)と小久保さん(右)が、
「夢茶や」でお待ちしています＞

コミュニティ スペース「夢茶や(むちゃや)」は、グリーンコンシューマー活動(環境に優しい消費活動をめざす)をしていた仲間たちと、2011年5月、地域の交流の場として開店しました。

麻雀教室・歌声教室・読書会・クリスマスリース作り会・餅つき会など、多くの楽しい企画を実現し、美味しいフェアトレードコーヒーを飲める喫茶店としても、地域の居場所となっています。

手作り品やフェアトレード商品・授産施設の商品を販売するコーナーもでき、社会貢献できるスペースでもあります。

2年前、「チェルノブイリ救援・中部」と同じビルに入った「名古屋小児がん基金」のスタッフが、油菜ちゃんを「夢茶や」で販売しないかと提案。さっそく南相馬の菜の花プロジェクトの紹介チラシなどを作成して、販売し始めました。「値段は少々高いけど、美味しいし、品質がいい。なにより買うことで応援できるのもうれしい」と言ってくれる常連さんに支えられて、販売を続けることができました。



この夏から油菜ちゃんの量り売りを始め、安く買えるようになったので、喫茶で好評の手作りマフィンの材料を、コメ油から油菜ちゃんに変えて出しています。しっとりしてくせがなく、ケーキの材料としては最適です。また、とうがらしやハーブを入れて、ドレッシングとしての使い方を紹介し、小さな瓶で気軽に買えるようにしました(写真 左)。

「夢茶や」に集う常連さん達のおしゃべりは、パワフルです。

「家から瓶を持ってくるのは面倒だから、ここに瓶をいくつか置いておけば、買いやすい」「小さい瓶なら試し買いができる」「成分表も作成して、他の菜種油との違いをわかるようにしたい」「今、まさにSDGsだよね～」「もっと

販路を広げるために、量販店とか、可能性あるかもよ」

「夢茶や」に商品を置いているフェアトレードショップ「風's」さんでも、油菜ちゃんの量り売りが始まりました。

いろいろな場所で、おしゃべりの花が広がるように、油菜ちゃんの販路が広がっていくことが、「原発事故を忘れない」「買うことで応援する」ことだと信じています。



＜「油菜ちゃん」を使っている
喫茶で好評の手作りマフィン＞

「夢茶や(むちゃや)」 TEL 052-931-8909

〒461-0027 名古屋市 東区 芳野 3-13-2 後藤ビル 1F
(水・金・土 9:30～16:00)

『油菜ちゃんレシピ』紹介// (その2) 手作りクラッカー 2種

前回に引き続き、高橋智津子さん（焼菓子工房み〜も）に、『油菜ちゃん』を使ったクラッカーの作り方を教えていただきました。その前に、ちょっと高橋さんについてご紹介します。

高橋さんは長年、食の安全に関する活動を続けてられています。

安全な食品の共同購入や、「遺伝子組み換え食品を考える中部の会」（代表はチェル救メンバー河田昌東さん <http://gm-chubu.sakura.ne.jp>）の活動（＊三重県の日市港で輸入陸揚げされるセイヨウナタネが、製油所へ陸送される際、通過する国道 23 号線にこぼれ落ち、道路脇で発芽し花を咲かせ、結実、種子が放出され拡散してしまうのを防ぐために、ナタネの抜き取り作業「遺伝子組み換えナタネ採取隊」を行っている）などです。

基本の「胡麻クラッカー」と、その応用編の「粉チーズとハーブのクラッカー」の2種類です。コロナで巣籠り生活が続きますが、お子さんと一緒に美味しい手作りのおやつをどうぞ！（戸村）

胡麻クラッカー

〔材料〕

- A) 薄力粉 100 g
砂糖 6 g
塩 3 g
すりごま 大さじ 3
B) 油菜ちゃん 大さじ 2
水 大さじ 2

〔作り方〕

- ① A をボールに入れて、よく混ぜる
- ② ①に B をさっくり混ぜる
- ③ ②をラップに挟んで、何回か〈折りたたみ・伸ばす〉をくり返し、めん棒で3ミリの厚さに伸ばす
- ④ オープンペーパーに移し、包丁でスティック状に切れ目を入れ、オープンで焼く【170℃ 20分】
- ⑤ 焼き上がったらオープンから出し、あら熱が取れたら、手で折りはがす



<マルシェの「焼菓子工房み〜も」>



<高橋智津子さん>

粉チーズとハーブのクラッカー

〔材料〕

- A) 薄力粉 100 g
砂糖 6 g
塩 3 g
粉チーズ 大さじ 3
好みのハーブ（みじん切り）大さじ 3
B) 油菜ちゃん 大さじ 3
水 大さじ 2

〔作り方〕

「胡麻クラッカーの ①〜⑤ と同様」に焼く

事務局便り

季節の移ろいの速さに驚く。10月が訪れ、今年もカードキャンペーンが始まる。ドンチエヴァさんは、キャンペーンについて「私達は、今年も必ずキャンペーンを行います。子ども達は、もうこのキャンペーンなしではすまされません。また厳しい防疫措置がとられるかもしれない事は理解していますが…」とのメッセージを寄せた。コロナ禍の中、悲しい思いをしている子ども達はたくさんいることだろう。だからこそ、温かなやさしいクリスマスが子ども達に訪れますようにと、強く願う。クリスマスは子ども達にとって特別のものだ。カード作りをしながら、今年少しでも楽しかったことを思い出してほしい。子どもだけではなく、疲れ、ファンタジーを無くしそうな大人達にも。(山盛)

【寄付金の内訳】(2021年7月・8月 単位：円)

	ミルク 支援	チエルパ 付 支援	福島支援	指定なし (一般寄付)	会費	合計
7月	11,000	0	0	61,000	3,000	72,000
8月	57,000	1,000	90,318	784,500	27,000	932,818
合計	68,000	1,000	90,318	845,500	30,000	1,004,818

7～8月の2か月間で、67名の方よりご寄付をいただきました。また前号で、夏カンパのお願いをいたしましたが、合計**481,762円(7/28～9/22)**が集まりました！

皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。皆様の応援を力に、活動を続けてまいります。ありがとうございました。(兼松)

編集後記

☆20年前、中村哲さんが国会で野次のなか、アフガニスタンへの自衛隊派遣を「有害無益」と発言していたことを最近知った。今、生きていてほしかったです。改めて合掌。(佳)
☆洗濯機が壊れた…今どきの洗濯機を購入することにした。人目にさせない洗濯室を片づけてたら、懐かしい写真が出てきて思わず手が止まる。けっこう嬉しかった。(美)
☆長引くコロナに対抗して、スマホに「万歩計」のアプリをインストールした。「一日1万歩」を目標として楽しんでいる(約3ヶ月間、記録更新中！)。主に、早朝や夕方を選んで、郊外や公園の散歩をすることが日課となった。「iPad」を片手に、お気に入りのYouTuber達(政治/社会系)の動画を聴きながら、マスクなしで綺麗な空気を満喫する。「健脚」を維持し、「自己免疫力」を高め、「マスコミの報じない社会情勢を知る」…など、一石三鳥である。人々がコロナに心を奪われている間にも、世界情勢は目まぐるしく変化を続けている。今、関心を持ってウォッチすべきことは、「中国の脅威(新疆ウイグル自治区のジェノサイド・台湾併合・恒大集団の金融破綻 etc.)」「AUKUS(豪・英・米の軍事協力)・Quad(日・米・豪・印の外交協議)」「日・米の選挙結果の行方」「アフガン撤兵後の中東和平」…など、多岐にわたっている。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「**エーブリント**」

TEL・FAX (052) 871-9473